



## New! まちライブラリーの紹介

新たに仲間入りした各地のまちライブラリーです。  
開館日時など詳細は、まちライブラリーHP内の「まちライブラリーに行こう!」で検索できます。  
(No. は登録番号です)

NO. 902 (大阪府 大阪市阿倍野区)

### ちびっと食堂@くらし

住宅街の一角にある子ども食堂の本棚です。子どもが楽しくなる本のほか、介護や福祉の現場で働く人たちのヒントになる本を揃えています。本棚は事務所の前にあるので、散歩の途中に立ち寄ってもらえると幸いです。

- Facebook: ちびっと食堂
- オーナー: ちびっと食堂@くらし

NO. 904 (京都府 大山崎町)

### 大山崎町まちライブラリー

大山崎町には図書館も書店もありません。本と触れ合い、本を通じた出会いを作ろうと、町内のカフェや雑貨店など8店舗に小さなライブラリーを設置しました。お気に入りの本を求めて、巡ってみてください。

- Facebook: 大山崎ライブラリーフレンズ
- オーナー: 大山崎ライブラリーフレンズ

NO. 906 (東京都 豊島区)

### シェアする軒先読書会・まちライブラリー

「令和のご近所付き合い」をコンセプトに掲げる「くすのき荘・喫茶店メリー」の軒先で、持ち寄った本を地域に開放中! 漫画や小説、評論など幅広い本を介して、皆さんの「好き」のシェアを目指しています。

- Web: <https://note.com/nonpa>
- オーナー: ノンパ 藤田正樹



NO. 908 (京都府 京都市東山区)

### ルーミー図書館

「東山区まちじゅう図書館プロジェクト」を立ち上げ、区内の家庭や店舗の前に小さな図書箱を置いて、地域の人たちが気軽に本を貸し借りできる暮らしを目標としています。当ルーミー図書館はプロジェクトの旗艦店です。

- Facebook: 東山区まちじゅう図書館プロジェクト
- オーナー: 東山区まちじゅう図書館プロジェクト 小原亜紗子

NO. 909 (富山県 砺波市)

### まちライブラリー@DERA-DESIGN

デザインに興味がある人なら誰でも勉強ができるよう、デザイン関連の本に特化したライブラリーです。この本たちを通じて、より多くの方が思い通りのデザインを自由に生み出す手助けになればと思っています。

- Web: <https://deradesign.jp/>
- オーナー: DERA-DESIGN

NO. 910 (静岡県 富士市)

### まちライブラリー@絵本と笑顔「あけちゃんち」

毎月第3木曜の10~15時は自宅を開放して、絵本セラピーなどを開いています。玄関前に絵本入りの小さなポストとベンチを置いているので、開放日以外は散歩の途中などにそちらをお楽しみください。

- オーナー: 黒井あけみ



NO. 913 (埼玉県 鶴ヶ島市)

### つながしまどこでもまちライブラリー @ふれあいカフェ

絵本と暮らしの情報誌を置いています。若葉ふれあいカフェを併設し、国家資格を持った専門家が生活の困りごと相談などに無料で応じています。

- オーナー: 若葉ふれあいカフェ 中田栄三郎

NO. 916 (茨城県 つくば市)

### まちライブラリー@roomsつくば

第三の居場所をテーマに、コワーキングスペースや個室の貸し出しなどを行っている場所で、まちライブラリーを始めました。読者会イベントなどを通じて、自分では手に取らない本との出会いが生まれますように。

- Web: <https://roomsr3.sakura.ne.jp/wp>
- オーナー: rooms 滝波俊平



NO. 917 (東京都 豊島区)

### まちライブラリー@My Bookself 里葉

人とのつながりを生む場所を作りたいと思い、一軒家を改装してきた本と庭のある場所です。金、土曜はカフェ、その他はシェアキッチンなどとして貸し出しをしています。わくわくすることを一緒に作りましょう!

- Web: <https://riyou-bookgarden.com/>
- オーナー: Book Garden カフェ里葉 坂下睦子

NO. 918 (宮城県 仙台市若林区)

### 荒井まちのわ図書館

本好きな人も、子育てママも高齢者も世代を超えて、多様な人が集まる本のある場所に。「すみません」より「ありがとう」を合言葉に。6月1日にオープンしたばかりですが、ご来館お待ちしております!

- Facebook: 荒井まちのわ図書館
- オーナー: 特定非営利活動法人まちあす 株式会社未来企画

NO. 920 (京都府 京都市中京区)

### まちライブラリー@アトリエとも

京都市内の中心地で障がい者支援施設が運営するカフェ&ギャラリーにライブラリーを併設しました。カフェでゆっくり読書をしたり、アート作品やオリジナル雑貨を楽しんだりしてお過ごしください。

- Web: <https://www.atelier-tomo.jp>
- オーナー: アトリエとも

★コラム from アメリカ★

## 学校でブックフェア 本とつながる、人もつながる

**長** 男が通う公立小学校での本とコミュニティにまつわる出来事をご紹介します。5月16~20日に「ブックフェア」というイベントがあり、校内の一室で朝から夕方まで本の販売会が開かれました。イベントの目的は、6月中旬から始まる夏休みを前に、家に本を準備しておくというものです。ファンタジーや科学、アニメなど様々なジャンルの本が並ぶ会場では、たくさんの親子があれこれ話しながら本を品定め。本を選ぶ楽しさは、どこの国でも同じなのですね。

そして驚いたことに、販売会の会計や本の陳列などの作業を担うのは保護者によるボランティアです。ボランティアに参加したい日時を選んで、オンラインで申し込める手軽な仕組みになっていて、すべての枠が埋まる活発さでした。みなさん作業をしながら、本の話はもちろん、子どもや学校のこと、地域のお店などについて賑やかにしゃべりしていた、保護者同士の関係を深める場にもなっていたようです。

引越してきたばかりの私にとっては、他の保護者や学校の雰囲気を知る良い機会となりました。

息子が気に入ったのは、期間中に一度開かれた「ミルク&クッキー ナイト」です。帰宅した後、午後6時に再び登校してミルクとクッキーを食べながら、先生たちによる絵本の読み聞かせを楽しみました。しかも、イベントのドレスコードは、なんとパジャマ! 子どもたちは、この夜に読んでもらった絵本をずっと覚えているに違いありません(右の写真は息子が購入した本です)。



## 偶然性×知見の共有 ブックフェスタが紡ぐ未来

まちライブラリーに関する情報はこちらから  
<https://machi-library.org/>



この通信が手元に届くころには、梅雨は明けているでしょうか？

少し先ですが、秋に向けてのお知らせです。今年は再度「まちライブラリーブックフェスタ・ジャパン 2022」を全国各地で実施します。9月2日から10月末まで、地区ごとに日程をずらし、各地をリレーする形で行う予定です。

リレーのスタート地点は、北海道千歳市です。千歳市には「まちライブラリー@ちとせ」が今年1月に誕生しました。以前にもお伝えしましたが、かつてあったまちライブラリーの存続を求めて2200人を超える署名が集まったことを受けて、千歳市役所が再開にこぎ着けたまちライブラリーです。この場所を核にしながら、9月2～4日にまちの中心部にあるグリーンベルトと呼ばれる約1キロメートルの公園道路を舞台に、本のお祭りをする予定です。地元の方々の志は高く、「札幌の雪まつり、千歳の本まつり」にしようと思気込んでおられて「巣箱型本棚」のグランプリやアウトドアブックショップなど様々な企画が進んでいます。

次のリレー先は、長野県茅野市です。蓼科高原地の玄関口、JR茅野駅周辺を本で元気にしようということで、今年は「まちライブラリー@My Book Station 茅野駅」を市民広場として拡大し、植本祭や駅へ直結する自由通路を

使った古本市など昨年同様に色々な活動を予定しています。

続いては大阪地区です。とりわけ「まちライブラリー@もりのみやキューズモール」を中心に大阪城公園に隣接した森ノ宮地区全体を巻き込んだイベントを考えています。森ノ宮のまちライブラリーは、開設から7周年になることにちなんで、7つの柱を作って数々の企画を考えています。岸和田市では、岸和田市立図書館に作られた「まちライブラリー@岸和田としょかん」の世話人さんたちが、岸和田城の中で100人が参加する一箱古本市を11月に開催予定です。

他にも、本の街として知られる東京・神保町にある児童書専門店「ブックハウスカフェ」内に設置されている「まちライブラリー@ブックハウスカフェ」では、児童書作家の山元加津子さんと元県立長野図書館館長の平賀研也さんと私のトークイベントも予定しています。このライブラリーは、橋爪千代子さんがボランティアで主宰、運営し、創意工夫と本への愛情があふれる場になっています。さらに静岡県では「みんなの図書館さんかく」館長の土肥潤也さんが、県と連携したまちライブラリーを実施する予定です。

また、今年で10回目を迎えるマイクロ・ライブラリーサミットは「まちライブラリー@大阪公立大学(旧:大阪府立大学)」で実施します。

現在、発表者を公募中ですが、特別企画としてかつて発表してくださった124団体のマイクロ・ライブラリーから近況を報告してもらおう車座談義を開く予定です。

このように、まちライブラリーブックフェスタの期間中はまちライブラリー、書店、公共図書館とそれぞれの地区ごとに特色豊かな活動が実施されると思います。ぜひご近所のイベントに参加するだけでなく、自らの活動として取り組んでみてください。

ブックフェスタを開く目的について、しばしば質問を受けることがあります。あまり深く考える必要はないと思いますが、何となく本を活用して楽しそうな雰囲気を作るといっていいでしょうか。このような言い方をすると、いい加減で無計画に見えるかもしれませんが、「いい加減」とは、「よい加減」、「よい塩梅」という意味が含まれるそうです。そして「無計画」は、「融通無碍」と解釈すればいいですね。各々人生を振り返れば計画通り進んだことより、思わぬ偶然性により人生の岐路が開けたことが多いのではないのでしょうか。

最後に、連携して活動を続ける意図について、最近読んだ本で『文化がヒトを進化させた人類の繁栄と文化—遺伝子革命>』(ジョセ

フ・ヘンリック著、今西康子訳、2016=2019、白揚社)にヒントがありました。ヘンリックは、人類がなぜ人類になったのか、その最大の鍵は、集団化するなかで文化が生まれそれが遺伝子革命をもたらしたということです。人単体としては、チンパンジーなどと比較しても学習能力や判断能力に劣る面もあるけれど、集団化し、文化を形成していく中で我々の遺伝子上の変化が起き、高度の文明を獲得するまでになったということです。

同じように集団脳の大切さは、『ソーシャル物理学「良いアイデアはいかに広がるか」の新しい科学』(アレックス・ペントランド著、小林啓倫訳、2014=2015、草思社)でも言及されていて、公開された人の知見は、さらなる発展を生むことを数々の社会実験を通して証明しようとしています。

まちライブラリーブックフェスタが、そのような活動になるかどうかは未知数ですが、皆さんの活動や生活のヒントになれば幸いです。どうぞ秋に備えて、暑くなりそうな夏を乗り切り、熱い思いで秋の活動に参画してください。

まちライブラリー提唱者 磯井純充  
連絡先 mail: MSJ00657@nifty.com